

ティーチング・ステートメント

所属 商学部経営情報学科

名前 伊藤穰

作成日 2020年9月17日

【責任】

商学部経営情報学科に所属する教員として経済政策をテーマとするゼミと、神奈川県中小企業家同友会が協力して授業を提供する「横浜企業家研究」を受け持つ。また、教学担当常任理事として学務本部の統括を行うとともに、国際交流担当理事（国際交流センター長兼務）、入試担当理事、IR委員会委員長として校務を行っている。ハンドボール部、バレーボール部、フットサル部の顧問を務めている。

【理念】

本学の卒業生には、社会の中で他者へ好ましい影響を与える人材になってほしい。このためには社会の仕組みを体系的に理解し、自ら考え、広く発信する力が求められる。体系的な社会の仕組みの理解のためには経済学の基本的な考え方の修得は重要であり、何が他者にとって好ましいことなのかを主体的に考えて発信し、行動することで、他者からの信頼は得られるだろう。自由な市場経済を基盤とする社会ではそうした人材は様々な機会を得て、個人としての幸せを掴むことができると考えている。

【方針・方法】

「社会の体系的理解」と「主体的に学び考える」「考えたことを発信する」「主体的に行動する」ことを方針として、以下に示すような方法をとっている。

方針1 「社会の体系的理解」

1. 広い視野と問題意識を養うために、ゼミでは毎週学生にその週に気になったニュースについて要旨とその背景を説明する「新聞報告」を課している。
2. 学生が報告した内容について、どのような問題であっても経済学の立場からの切り口を提示し、経済学的考えを学生に示している。
3. 経済学の基本的知識についても適宜説明を加えている。
4. 有志の学生に限られるが「金融政策」についての勉強会を行い、経済学や金融論の基本的な知識の理解を深めている。

方針2 「主体的に学び考える」

1. 卒業論文やグループ研究のテーマは学生自身が決めるようにしている。

2. 他者の報告をただ聞くだけでなく自ら考える機会とするために、グループでのディスカッションの時間を設けている。
3. 1回のゼミで各人必ず1回は発言するようにルールを決めている。
4. 学んだ実感を得て、主体的に学ぶ動機を持つために、授業の最後には必ずその日に学んだこと、印象に残っていることは何かを書かせ、その日の学びを確認する機会としている。
5. 課外活動では、部員自身が部の運営計画を考えるようにしている。

方針3 「考えたことを発信する」

1. 報告は全てPPで行い、プレゼンテーション能力を磨くようにしている。
2. 発信することに慣れるために、プレゼンテーションや発言の機会を多くしている。
3. ゼミの2年生では、横浜FCの認知度向上を目的にSNSによる発信を行っている。

方針4 「主体的に行動する」

1. カリキュラム改編にあたっては、地域社会や地元企業と協業するプロジェクト型の授業を盛り込み、学生が地域社会に触れて実践を通じて学ぶことを重視した。

【評価・成果】

1. 2020年度からの新カリキュラムの実施
2. 2020年度からのスポーツマネジメントコースの開設
3. 2年生で行っているSNSでの投稿が増加した。
4. 授業評価での学生からの好ましいコメントが多かった（ゼミ）。
5. IR組織の変更を行い、教学面からIRの方針を決めやすくした。
6. 2019年度に神奈川県中小企業家同友会と協力し、新科目「横浜企業家研究」を開設
7. オーストラリアにある提携校（ホルムズグレン）と協力して海外研修を実施する科目を設置した。（コロナウイルスにより中止）

【目標】

1. 長期的には、経済学の理論に基づいた議論を学生が行えるようにする。
2. 短期の目標として、学生の報告、プレゼンテーションの質を向上させ、より深い議論を促すために、次年度より各種のインストラクションをより丁寧に行う為に資料を改訂する。（2021年度）
3. 国際交流センターの物理的空間の確保（2021年度）